

(専門試験 総合土木 No. 1)

日本の下水処理において、下水中の有機物を処理する方法として一般的に用いられているのはどれか。

1. 砂層によるろ過処理
2. 粉末活性炭を注入して吸着させる活性炭吸着処理
3. 微生物のはたらきによる生物処理
4. 紫外線を照射する紫外線処理
5. オゾンガスを注入するオゾン処理

正答番号 3

(専門試験 総合土木 No. 2)

1800 m³ (締固めた土量) の盛土を造成するために必要な地山の土量と、ほぐした土量の組合せとして妥当なのはどれか。

ただし、土量の変化率は、ほぐし率を1.2、締固め率を0.9とする。

	地山の土量	ほぐした土量
1.	1500 m ³	1350 m ³
2.	1620 m ³	1350 m ³
3.	1620 m ³	2160 m ³
4.	2000 m ³	2160 m ³
5.	2000 m ³	2400 m ³

正答番号 5